

平成 28 年度 神奈川県中学校野球大会運営規定

《第 1 章 総則編》

1. 本規則の適用

本規則は次の大会運営に適用する。

- ア. 神奈川県中学校春季野球大会（主催・神奈川県中学校体育連盟，神奈川県野球連盟）以下春季大会という。
- イ. 神奈川県中学校野球大会（主催・神奈川県中学校体育連盟，神奈川県公立中学校長会，当該教育委員会）以下夏季大会という。大会の正式名称は、上記大会名に「第〇回（平成〇〇年度）」と冠する。

2. 参加校

- (1) 春季大会は、ブロック大会を経て選抜された 9 校で行う。
(内訳：横浜 2，川崎，横須賀，湘南，相模原，県央，中，県西 各 1)
- (2) 夏季大会は、ブロック大会を経て選抜された 24 校で行う。
(内訳：横浜 6，川崎 3，横須賀 2，湘南 3，相模原 3，県央 3，中 2，県西 2)

3. 参加資格

- (1) 選手は、各地区中学校体育連盟に加盟している中学校に在籍する生徒で、当該中学校長が参加を認めた者に限る。
- (2) 指導者は、当該中学校の教員および学校長が認めた者とする。ただし、監督は当該中学校教員とする。（地域指導者については大会前に申請書を提出すること。）
- (3) 1 チームの登録人数は、選手 20 名（背番号は 1～20 で、原則として 1～9 はポジション別とする）スコアラー 1 名、
例 1）監督(30)、コーチ(29)、外部指導者(28)、校長(教頭)・例 2）監督(30)、部長、コーチ(29)、校長(教頭) 最大 25 名がベンチに入れる。
- (4) 卒業生や父母等は、ベンチに入ってはならない。

4. 参加申込

- (1) 参加校は、地区、ブロック大会及び県大会のそれぞれ、定められた期日までに所定の大会参加申込書（登録用紙）を大会本部に提出する。
- (2) 春季大会においては、各チームは、大会参加申込書と同時に、ブロック大会参加料を納入する。各ブロックは、その中からブロック分担金を県大会本部に納入する。
- (3) 選手の登録変更は、大会当日、試合開始前（チーム受付時）までに、当該中学校長が認めた変更届（様式自由）を大会本部へ提出する。2 戦目以降の登録メンバーの変更はできない。ただし、試合ができる人数が揃わない場合は考慮する。

5. 競技方法および抽選

- (1) 学校対抗で全試合トーナメント方式とする。
- (2) 春季大会の抽選は、1 月の県専門部会で各ブロック責任者が行う。夏季大会は、7 月下旬の県中総体の種目別打ち合わせ抽選会（各校教員 1 名，主将 1 名が参加）で行う。

6. 競技規則

(1) 当該年度公認野球規則並びに当該年度（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携、及び本規定による。

(2) 次の大会規則及び第 2 章競技編の細則以外は、当該年度野球規則に基づいて行う。

- ア. 春季大会・夏季大会ともに全試合 7 イニングスとする。（5 回裏終了時で同点以外の場合は試合が成立）
- イ. コールドゲームは、5 回以降点差が 7 点以上の時に適用する。
- ウ. 延長戦は、9 回までとする。それでも勝敗が決しない時には、次のような特別ルールを適用する。
(名称は「大会特別ルール」とする)

＜大会特別ルール＞

- 9 回終了後の「継続打順」で、前回の最終打者を 1 塁走者とし、順次前の打者をそれぞれ 2 塁、3 塁の走者とした無死満塁の状態から、1 イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗が決しない場合は、継続打順で繰り返すこととする。
- エ. 一会場において 1 日に 5 試合が予定されている場合、その会場の試合については試合開始より 2 時間を越えた場合に、7 回まで試合を行い（コールドの場合は除く）、次の回より大会特別ルールを適用する。

オ. 日没、降雨、光化学スモッグ、その他の事情で試合続行不可能になった場合、特別継続試合を適用する。

特別継続試合は、試合が中断したその状態から再開する。特別継続試合が適用されるのは、同点もしくは試合が成立していない場合である。

7. 表彰

(1) 春季大会は、優勝、準優勝、3位2校の計4校を表彰する。横浜第1代表以外の最優秀校は、クラブチーム最優秀チームとの代表決定戦の末、8月横浜スタジアムで行われる全日本少年野球大会に出場する権利を得ることができる。ただし、全日本少年野球大会に出場が決定した時点で、夏季各地区大会への参加については地区の中での取り決めとする。

(2) 夏季大会は、優勝、準優勝、3位2校の計4校を表彰する。優勝校と準優勝校は本県代表として、関東中学校野球大会に出場する。

*全日本少年野球大会に出場する場合

準決勝で優勝校に敗れた3位校は、関東近県中学校選抜野球大会（8月中旬、千葉県銚子市）に推薦出場することができる。

*全日本少年野球大会に出場しない場合

準決勝で優勝校に敗れた3位校は、水戸市長旗東日本少年軟式野球大会（8月中旬、茨城県水戸市）に、4位校は関東近県中学校選抜野球大会（8月中旬、千葉県銚子市）に推薦出場することができる。

8. 地区・ブロック大会における会場責任者の任務

会場責任者は次の任務を行う。

- ア. 天候等による試合実施可否の判断をし、関係者との連絡をとる。
- イ. 会場の準備とかたづけを行う。
- ウ. 万一来て備えて、事前に医療機関等の確認をする。
- エ. 試合結果を地区・ブロック責任者へ即日連絡する。
- オ. 事後、試合実施記録（報告書）を速やかに地区・ブロック責任者へ送付する。
- カ. その他、大会運営に必要なことがらを行う。

9. 地区・ブロック責任者の任務

地区・ブロック責任者は、大会に関して次の任務を行う。

- ア. 当該中体連会長と連絡をとり、県大会に準じて、地区・ブロック大会の実施要項を定め、運営全般を統括する。春季大会予選については、当該野球連盟責任者とも協議する。
- イ. 試合結果を神奈川新聞運動部（直通電話 045-201-2488）へ即日連絡する。
- ウ. 大会前に実施要項を2部、大会後に大会結果報告書と災害報告書を各2部、県専門部長へ速やかに送付する。
- エ. 県専門部会及び夏季大会打ち合わせ抽選会には必ず出席する。

10. 運営主管

県大会本部は、県専門部役員と該当ブロック専門部員で構成し、県大会の運営主管の任にあたる。細部にわたる任務分担は別に定める。

11. 安全救護

安全対策及び救護については、県及び当該ブロック中体連会長の指示に基づいて行う。

12. 附則

県大会は春季大会・夏季大会ともに同じブロックが担当し、次の通り持ち回り開催とする。

- ア. 春季大会（5月23日、予備日翌日・5月30日、予備日翌日+月日）
- イ. 夏季大会（7月下旬～8月上旬、県中学総体の日程の中にくり入れ）

28年度 県央	29年度 横須賀	30年度 横浜	31年度 中
32年度 川崎	33年度 県西	34年度 湘南	35年度 相模原

《第 2 章 競技編》

1. 試合前には

- (1) 指導教員に引率されたチームは、試合開始予定時刻の 60 分前までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出て、所定のメンバー用紙を受領し、練習等の指示をうける。原則として第 1 試合のチームは必ず会場にくる。
- (2) 開始予定時刻をすぎてもチーム（教員に引率された生徒）が到着しない場合は、棄権とみなす。ただし、不測の事故（交通機関等の故障等）による球場到着が遅延するとの連絡があった場合は、大会役員と審判員との協議で考慮をする。
- (3) 天候や日没等の状況によっては、試合時間を早めることもある。
- (4) 球場までの往復の服装は、各学校の標準服またはユニフォームか各チーム指定した服装で中学生らしくきちんとする。
また、交通道德を守り、事故のないよう十分に注意する。
- (5) 試合前の練習には、必ず当該教員が現場に立ち会い、施設、設備等に破損のないように留意する。
- (6) 更衣、昼食は本部の指定した場所で行い、使用後の片付けはきちんとし、ごみは必ず処理をする。
- (7) 第 1 試合のメンバー用紙交換、攻守決定等は試合開始予定時刻の 40 分前とし、第 2 試合以降は前試合の 4 回終了時とする。また、メンバー用紙交換後に試合用のユニフォームを着用し、ブルペンを使用する先発バッテリーのみ投球練習を行ってよい。また、先発バッテリー以外の選手のキャッチボールも行わない。ただし、グラウンドには一切道具を置かないこと。試合中には、グラウンド内に不要な物は置かないこと。捕手も防具を全て着用すること。
- (8) 抽選番号の若い方が 1 塁側ベンチに入る。
- (9) グラウンド内でアップを行う時には、登録メンバーのみ練習を行うことができる。補助員は、練習に参加できない。服装は、登録メンバー、補助員もグラウンド内では試合用のユニフォームを着用する。
- (10) アップの練習の中でバッティング練習を行う際には、投げて対して、打者が打ち返す程度の打撃にする。
- (11) シートノックは後攻側から始めて、7 分以内とする。ただし、前の試合が予定時間より延びたり、天候の状況によってはノックを省いて直接試合に入ることもある。また、ノックの手伝いを行う選手は登録選手以外に 5 名とし必ずヘルメット・試合用のユニフォームを着用すること。シートノック時には、マウンドに入らないこと。先発バッテリーのみブルペンでの投球練習を認める。
- (12) 相手チームのシートノック時に、審判員で道具のチェックを行う。チェックで使用できないと判断された道具は、本部席の該当ブロックの役員が預かる。一度使用ができないと判断された道具を、次の試合でベンチに持ち込むことはしない。ただし、修繕した場合は使用可。
- (13) 監督・コーチは選手と同一のユニフォームを着用する。部長は平服(Yシャツ・ネクタイ、ポロシャツ及び選手と同一の帽子)または、選手と同一のユニフォームとする。シューズも同じ色。ノッカーを兼ねる場合は選手と同一のユニフォームとする。女性の場合は考慮する。地域指導者も同じ扱いとする。スコアラーは選手と同一のユニホーム、学校指定の標準服・ジャージ（体操着）を着用する。（*スコアラーは背番号 21 をつけない。）
- (14) 正式球場でないときは、グラウンド特別ルールを必ず確認しておく。
- (15) いかなる試合でも学校教育の中での活動であるから、中学生としての野球の真髄を忘れずに競技する。

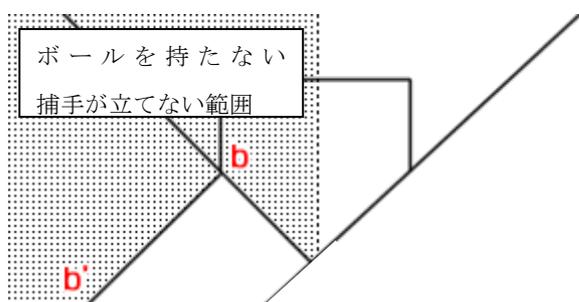
2. 試合中には

- (1) 中学生らしく、フェアプレーに徹する。野次は絶対に慎み、すばらしいプレーには敵味方なく拍手を送る態度であってほしい。
- (2) 選手交替の申し出は監督が行う。また、グラウンド内には監督のみ入ることができる。コーチは不可。
- (3) 髪はプレーに支障がないように短くし、帽子は深くきちんとかぶる。ランナーのヘルメットがぬげた時は野手または塁審が、インフィールド外の場合はランナーコーチがすみやかに拾って渡す。タイムはとらないようにする。
- (4) ベンチ内では禁煙であることはもちろんのこと、指導教員は体面を保ちつつ、応援を含めすべてにおいて生徒の指導、掌握に全責任を負う。

- (5) イニングの合間の素振りは、先頭打者と次打者のみとする。また、イニングの合間に投球に合わせての走塁練習も行わないこと。
- (6) 投球練習は、初回は7球、他は3球以内とする。時間は1分以内で行うこと。また、投手交代時は7球とする。
- (7) 先頭打者とランナースコーチ（生徒に限る）は、自軍の円陣の中には加わらず速やかに所定の位置につく。
- (8) 打者は、打席に速やかに入り、そのつど球審にあいさつは無用である。次打者は投手が投球動作に入ったらサークル内で低い姿勢で待つ。
- (9) コーチアボックス内にグラブ等を携行してはならない。**
- (10) 攻守の交替はかけ足で、きびきびと行き、試合進行に協力する。
- (11) 抗議はユニフォーム着用の監督または主将のみとするがアピールプレーは当該プレーヤーが行ってよい。また、監督以外のコーチは、シートノック時を除きグラウンド内に入ることはできない。
- (12) 無用のタイムは慎み、試合進行には協力する。くつひもの結び直しなど、故意に時間をとるタイムは取らない。
- (13) 投手は、捕手からの返球でボールを受け取った後、速やかにプレートにつく。捕手は、捕球後にミットを動かしたり審判が投球判定をする前に投手へすぐに返球したり、審判の判定に抗議するかのように判定後にもミットをしばらく止めておく行為は行わない。
- (14) 試合中、ベンチ前でのキャッチボールは2組以内とする。ゴロを転がしたり遠投は行わないこと。ブルペンでも、遠投は行わないこと。
- (15) 4回終了時にグラウンド整備を行っている時には、選手はベンチ内で待機すること。ただし、バッテリーのみベンチ前での練習は可。
- (16) ボークは最初からとる。
- (17) よける行為がなく、投手の投球に当たった場合はデットボールとしない。
- (18) 打者は必ずボックスの中でサインを見ること。1球1球無用にボックスをはずしてはならない。
- (19) 打者走者は、スリーフットレインの中を走ること。
- (20) スライディングは無用にスパイクを上げて行ってはならない。守備野手を故意にスパイクしたり、野手が走者に対してブロックをする行為は決して行わない。
- (21) 内野のボールまわしの際にマウンドに寄りすぎない。
- (22) 突発事故が起きた場合、一時走者を代えたい時は、球審に申し出て、審判団の了解が得られれば、さしつかえない。
- (23) 規則7・06【付則】(捕手のタッグ)の適用については、中学校野球では「ボールを保持しているときしか塁線上位置することはできない」こととする。

「規則適用上の解釈」

- ① 走塁妨害を適用するのは、あくまで捕手のその行為がなければ当然本塁に到達できた、と判断できる場合である。
- ② 捕手のその行為が走塁妨害にもかかわらず、瞬間的に「アウト」のコールをした場合でも、改めて「オブストラクション」の宣告をし直す。
- ③ 走塁妨害適用外であっても、そのような行為があった場合は、試合を停止した上、捕手に対して厳重注意すること。
- ④ ボールを保持する前の立つ位置は次の通りとする。ホームベースの中央より右側に立ち、ベースの左半分を走者に見えるようにする。また、捕手がホームベースより後方に位置するときでも、ホームベースと三・本塁のラインが重なる3塁よりの接点(下図b～b')から前方に出てはいけない。



⑤捕球してからの動き

ボールを保持しているときは塁線上に移動してタッグして良い。

(24) タイムをかけた監督は、ファールラインを越えてダイヤモンドに入ってもよいが、往復は必ずかけ足とする。

(25) 規則 3・03【原注】〔前段〕「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は本大会では適用しない。

〔規則適用上の解釈〕

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。また、投手は同一イニングで二度目の投手に戻れば、それ以降は他の守備位置につくことはできない。

神奈川県中学野球特別規定で適用する内容（ただし、規則 3.05 適用）

投手→野手→野手、投手→野手→投手、投手→野手→野手→投手

(26) 監督が、投手のところへ行く回数の制限(8.06 関連)

(1) 監督が 1 試合に投手のところへ行ける回数は 3 回以内とする。なお、延長戦（特別延長戦も含む）は、2 イニングに 1 回行くことができる。

(2) 監督が、同一イニングに同一投手の所へ 2 度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手の所へ行かせた場合）は、投手は自動的に交代しなければならない。

(27) 守備側のタイムの制限

捕手または内野手が、1 試合に投手の所に行ける回数は、3 回以内とする。なお、延長戦（特別延長戦も含む）は 2 イニングに 1 回行くことができる。野手（捕手も含む）が投手の所へ行った場合、そこへ監督が行けば、双方 1 度として数える。逆の場合も同様とする。投手交代の場合は、監督のみ回数に含まない。投球練習時など、野手が投手に近寄った場合もタイム 1 回にカウントされる。

(28) 攻撃側のタイムの回数制限

攻撃側のタイムは、1 試合に 3 回以内とする。なお、延長戦（特別延長戦も含む）は、2 イニングに 1 回とする。

(29) 相手チームのタイム中に、監督がベンチを出て（または、選手を集めて）タイムとみなされる行為を行った場合は、守備側のタイムと攻撃側のタイムと双方 1 度として数える。

(30) 応援団は次の事項を守り、指導教員はその責任を負う。

ア. 紙吹雪、テープ、個人名を書いたのぼり等は禁止する。

イ. 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。父母等の応援も興奮のあまり相手チームを刺激しないように留意する。また球場設備などを傷つける応援は行わない。（テント設営も含む）

ウ. 応援は攻撃側のチームが応援を行い、守備側のチームは継続的な応援は慎み最小限に留めること。

エ. 応援席の周辺を散らかさないと共に、試合後必ず清掃する。

オ. その他中学生らしからぬ行為は絶対に慎む。

(31) 試合を行っているチームの該当ブロックの役員は、本部席にいること。

(32) 投手の投球制限について、「投手の投球制限については、7 イニングまでとする。」は本大会では適用しない。

3. 試合後には

(1) 試合後のあいさつはホームベースをはさんで行うのみにとどめ、次の試合のために、すみやかにベンチを空ける。

(2) 各校の指導教員は球場を去る前に大会本部に連絡し次の試合日程等の確認を行う。

(3) 自分たちの使ったベンチ内および練習場の整備、清掃をきちんとする。

(4) 試合場のグラウンド整備は最終試合の勝利チームが行う。

平成 28 年度 神奈川県中学校軟式野球専門部 用具・装具規定

【基本方針】

1. 公正公平に競技するための補助的な規定として設ける。
2. 用具による差異を無くし、平等な条件で競技ができるようにする。
3. 安全面に対する最大限の配慮を行い、危険防止に努める。
4. 各学校や個人の経費負担が過大にならないように配慮する。
5. 学生野球であることを認識し、華美にならないように配慮する。
6. 高校野球への円滑な移行を考慮し、高野連の規定も参考にする。

1. ボール

- (1)使用するボールは全日本軟式野球連盟公認球B号とする。

2. バット

- (1)一本の木材で作った木製バットであること。カップバットは、1. 10(b)の規定に準ずる。木製については公認制度を適用しない。
- (2)金属バット(当面はカーボン製を含む)は原則としてJ・S・B・Bのマークをつけた公認のものとする。
- (3)バットの握りの部分については、市販のグリップテープを使用する。グリップテープが切れたり、明らかに止まっていないものは使用できない。グリップテープはブラック、ブラウン系またはグレーの一色とすることが望ましい。
- (4)明らかなくぼみや亀裂の認められるものは使用できない。
※(1)～(4)について、試合前に大会本部が確認する。

3. ユニフォーム

- (1)同一チームの監督、コーチ、選手は、同色、同形のユニフォームを着用する。シューズも同じ色(黒)。選手のユニフォームには、規定の大きさの背番号をつける。監督は背番号 30 とする。コーチは背番号 (29、28) を着ける。
- (2)帽子、アンダーシャツ、ベルト、ストッキングもユニフォームの一部である。
- (3)ユニフォームの背中に個人名はつけない。
- (4)ノースリーブの上着は認めない。
- (5)ロングタイプ(裾を極端に絞った変形ズボン)や裾幅の広いストレートタイプのパンツ、ベルトレスパンツは使用できない。
- (6)危険防止のため、アンダーソックスとストッキングを重ねて着用すること。また、ハイカットのストッキングは着用できない。ストッキングは、かかとまでかぶらない物としアーチの部分が一目で見分けるものを使用する。
- (7)ここで規定するユニフォームとは、「ユニフォーム」として、販売業者のカタログに分類されている製品である。上着とズボンとのツートンカラーは認めるが、上着の前面と背面でのツートンカラーなど、華美なものは認めない。
- (8)アンダーシャツの襟元の標章やネーム刺繍の入っているものは使用できない。

4. スパイク

- (1)スパイクはチーム全員が同色のものを着用する。原則として黒一色(エナメル不可)とする。ハイカットやミドルカットについては認める。
- (2)ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (3)金具はポイント式を使用してもよい。

5. グラブ

- (1) グラブ、ミット類は野球規則に準ずる。カラーグラブ、ミットは使用できない。ただし、黒色については使用できる。単一色が望ましい。
- (2) 投手用のグラブは縫い紐、しめ紐、ウェブを含む全体が一色であること。色は白と灰色以外とする。
- (3) 野手のグラブの締め紐は本体色と同系色とする。ただし、黒色と茶系色の締め紐に限って本体色にかかわらず使用できる。締め紐は長すぎないこと。親指の長さ程度にする。
- (4) 刺繍で選手個人名、番号その他の文字を入れるなどしてはならない。
- (5) 捕球を容易にするための目的で、特殊な突起物や材質の違う物をグラブの表面に加工した形状の製品の使用は認めない。

6. ヘルメット

- (1) 打者、次打者、走者はSGマークのついた連盟公認の両側にイヤーフラップのあるヘルメットを着帽する。
- (2) 校名、校章、頭文字イニシャルを表示する。番号などの表示を認める。
標章についての規定は設けない。
- (3) シートロック時にノッカーにボールを渡す生徒(選手)、ボールボーイ、バットボーイ、ランナーコーチはいずれも危険防止のためヘルメットを着用すること。
- (4) 亀裂のあるものや内側の保護パットがついていない、固定されていないものは使用できない。
- (5) チームとして、色やデザインは同一のものを着用する。

※(1)(2)(4)(5)について、試合前に大会本部が確認をする。

7. 捕手の装具

- (1) マスクは連盟公認のものを使用し、必ずスロートガードを装着する。スロートガード一体型のマスクは装着しなくてもよい。
- (2) 連盟公認のレガーズおよびプロテクター、SGマークのついた捕手用のヘルメットを装具する。
- (3) 膝痛軽減用パットの使用を認める。ただし、色は黒または紺一色とする。
- (4) レガーズおよびヘルメットに亀裂や破損のあるものは使用できない。
- (5) 投球練習時の装具も(1)、(2)の規定に準ずる。
- (6) 急所カップは原則として使用する。メンバー交換時に持参すること。

8. 手袋、リストバンド

- (1) 野球用の手袋で打者、走者、投手以外の守備に使用できる。リストバンドを兼ねたようなものは禁止し、手首から先のものとする。
- (2) 色は白または黒色の単色のみ(高校野球ルール対応品)とする。ワンポイントの商標は同色とみなす。
- (3) リストバンドは使用できない。
- (4) リストガードについては、医療目的のために使用し、技術を補うために使用はできない。使用する場合は、試合前のメンバー用紙交換時に本人と一緒に申し出る。

9. その他の用具

- (1) サングラスの着用は、天候状態等によりプレイに支障が出る場合、大会本部に申し出る。メガネ枠はブラック、ネイビーまたはグレーの一色とし、メーカー名はメガネ枠の本来の幅以内とする。ガラスの眉間部分へのメーカー名もメガネ枠の本来の幅以内とする。また、著しく反射するレンズのサングラスの使用は認めない。
- (2) レッグガード、エルボーガードは原則として使用しない。事情があり使用を希望する場合は、大会本部に申し出て許可を得る。
- (3) スプレーの使用は手袋の磨耗が激しく、打者が優位になることがあるので禁止する。
- (4) 鉄棒およびバットリング・マスケットバットの球場内への持ち込みを禁止する。
- (5) メガホンの使用は監督のみとし、1個とする。